

重症の脊柱管狭窄症でも大半が 劇的に改善し痛みが消えること 胎盤エキス「プラセンタ」が評判

清水整形外科
クリニック院長
清水伸一

傷んだ組織の修復を 促すプラセンタ

腰部脊柱管狭窄症に悩む人が、中高年男女に急増しています。腰痛、下肢のしびれや痛み、間欠性跛行（痛みのせいでこま切れにしか歩けなくなる症状）のせいで、働くことや日常生活に制限が生じ

て、肉体的・精神的に多大なダメージを受けている人が、非常に多くなってきています。

今のところ、脊柱管狭窄症には決定的な治療法がないため、患者さんは複数の病医院や鍼灸院などを転々とすることになります。ところが、思ったほどの効果が現れず、病状はどんどん悪化するばかり

りというケースが少なくありません。

そして、手術を受けることにならざるを得ない人が、それでもすべての例でよくなるわけではなく、症状が残ったり、数年後に再発したりすることがあります。脊柱管狭窄症はかくも治療の難しい病気で、私は以前から何かいい方法がないか



◆プラセンタの薬理作用◆

- ①基礎代謝向上作用
- ②細胞活性化作用
- ③呼吸促進作用
- ④血行促進作用
- ⑤造血作用
- ⑥疲労回復作用
- ⑦血圧調節作用
- ⑧自律神経調節作用
- ⑨ホルモン調整作用
- ⑩免疫強化作用
- ⑪活性酸素除去作用
- ⑫抗突然変異作用
- ⑬創傷回復促進作用
- ⑭抗炎症作用
- ⑮抗アレルギー作用
- ⑯体質改善作用
- ⑰強肝・解毒作用
- ⑱妊婦の乳汁分泌促進作用
- ⑲食欲増進作用
- ⑳精神安定作用

模索を続けてきました。そうした中で出会ったのが、プラセンタ療法だったのです。

そして、プラセンタのこれらの力を総合すれば、低下し衰えた体力や自然治癒力を増強でき、傷んだ細胞や組織、さらには臓器の修復を促せることを知りました。プラセンタなら、脊柱管狭窄症に苦しむ患者さんを救えるかもしれないと考えて、実際に治療を始めてみたのです。

腰痛も足のしびれも 消えウツ状態も解消

当院には、脊柱管狭窄症による腰痛や下肢のしびれ、間欠性跛行を訴える患者さんが多数訪れます。そうした患者さんにプラセンタの薬剤を注射するプラセンタ療法を行うと、わずか数回で痛みやしびれがなくなるケースが続出して、医師の私も驚くほどです。

脊柱管狭窄症で悩む約六割の人に改善が見られると述べました。それについて、全国の患者さんばかりか、多くの医師から問い合わせが寄せられました。どんな方法で統計を取っているかを今一度、説明しておきます。

私は、二年前から脊柱管狭窄症の患者さんを治療するとき、治療開始から三カ月後、六カ月後の二回にわたって、①腰痛、②下肢痛、③下肢のしびれ、④歩行距離、⑤治療満足度の五項目で病状をチェックすることにしています。

⑤の満足度をさらに、「非常に満足」「満足」「ふつう」「やや不満足」「不満」「非常に不満」に分け、これまでプラセンタ療法を六カ月間受けた患者さん（五三人）に記録してもらってきました。

その結果、プラセンタ療法に対して、約二〇%の人が「非常に満足」、約四〇%の人が「満足」と答えました。そのほか、「ふつう」と答えた人が三六%で、「やや不満」が四%でした。「不満」「非常

例えば、七十一歳の男性は、五年前から、腰痛に加えて右足の下肢痛が現れて杖をつくようになり、一年前には足がしびれて一〇〇歩歩くのがやっとの状態になりました。そのうちに手押し車を使わなければ外出も容易ではなくなりました。日常生活にも支障をきたし、不安と焦りからウツ状態に陥ってしまいました。

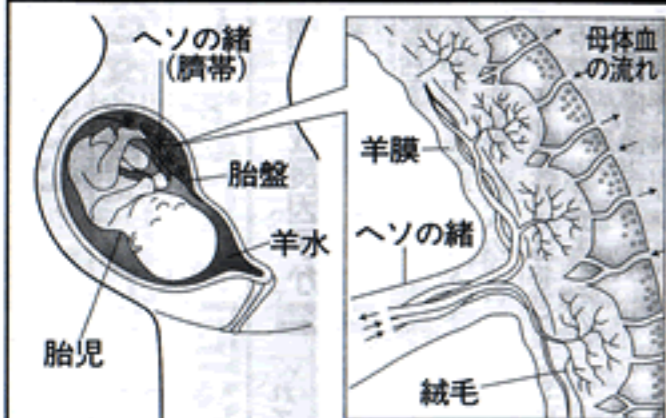
私には、「わかさ」三月号の記事で、プラセンタ療法を行うと、脊

つたところ、六カ月後には一歩の歩行が可能になり、歩いて買い物に行ったり花見に出かけたりするまでに回復。当然、ウツ状態は解消し、現在では、痛みもしびれもほとんどなくなっています。

六〇%の人がプラセンタ療法に満足している

私は、「わかさ」三月号の記事で、プラセンタ療法を行うと、脊

プラセンタとその効用



プラセンタは、哺乳動物の胎盤、または、そこから抽出されるエキスのこと。胎盤は、胎児と母親を結んで胎児の生命を維持し成長を促す臓器。プラセンタが脊柱管狭窄症に効くのは、プラセンタに備わった次の薬理作用が複合的に働くためと考えられている。例えば、腰痛には細胞活性化作用や抗炎症作用、下肢痛には抗炎症作用や自律神経調節作用、間欠性跛行には血行促進作用が働くといったぐあい。